名前

／

英俊進学塾

1 次の文章（本文・解説文）を読んで、後の問いに答えなさい。

本文

ある者、*道風が書ける和漢朗詠集とて持ちたりけるを、或人（あるひと）、「御相伝（あなたの）家に伝わる（小野道風）もので、いいかげんなことはないでしょうが、浮けることには侍らじなれども、*四条大納言撰（えら）ばれたる物を道風書かむこと、①時代や合はず侍らん（でしょう）。おぼつかなくぞ」と②言ひければ、「さ（です）候へばこそ、世に③有（あり）がたき物には侍りけれ（ございます）」と、いよいよ④秘蔵しけ（大事にしまっ）り（ておいた）。

（「徒然草」第八十八段より）

＊語注　道風…平安時代（894年～966年死没）の人で、優れた字を書くこと（能書家）で有名
和漢朗詠集…漢詩や和歌を集めた書物
四条大納言…平安時代（966年～1041年死没）に活躍した歌人

解説文

右の本文は、鎌倉時代末期に書かれた『徒然草』（兼好法師）にある話で、三〇〇年以上前に書かれた『和漢朗詠集』の写本（書き写したもの）を家宝として代々受け継いできたという人物が登場する。この話では、別の人物が、『和漢朗詠集』を編集した時代と書き写したとされる時代に食い違いがあるだろうと指摘しているのがポイントになっている。

問一　本文中の次のa・bの語句について、現代かなづかいになおして、すべてひらがなで答えなさい。

a「書かむ」（　　）　b「合はず」（　　）

問二　傍線②「言ひければ」・④「秘蔵しけり」の主語として最も適切なものをそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

②（　　）　④（　　）

ア　ある者　イ　道風　ウ　或人　エ　四条大納言

問三　次の文章は、傍線①「時代や合はず侍らん。おぼつかなくぞ」について説明したものである。空欄a・b・cにあてはまる最も適切なものをそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

a（　　）　b（　　）　c（　　）

編集した［a］と、それを書き写した［b］の生きていた時代が明らかに食い違っており、それが［c］ということ。

ア　ある者　イ　道風　ウ　或人
エ　四条大納言　オ　作者　カ　嘆かわしい
キ　聞き苦しい　ク　あやしい　ケ　待ち遠しい

問四　傍線③「有がたき物」とあるが、このような言い方をする説明として最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。（　　）

ア　編集した時代と書き写した時代には確かに食い違いがあるが、その珍しい状態だからこそ余計に腹が立って仕方ないということ
イ　編集した時代と書き写した時代には確かに食い違いがあるが、そのあり得ない状態だからこそ珍しくて値打ちがあるということ
ウ　編集した人物と書き写した人物には確かに食い違いがあるが、その奇妙な状態だからこそ家宝として大切にしているということ
エ　編集した人物と書き写した人物には確かに食い違いがあるが、その平凡な状態だからこそ自慢して値打ちをつけたいということ

問五　この話から推測できる本の持ち主とはどのような人か。最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。（　　）

ア　気の毒な人　イ　教養のある人
ウ　風変わりな人　エ　欲深い人

E12618f59b790

名前

／

英俊進学塾

2 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

木の花は、濃きもうすきも紅梅、［①］。桜は、花びらaおほきに、葉の色濃きア［が］、枝はほそくて咲きたる、［②］。藤の花は、しなひ長く、色濃く咲きたる、いとめでたし。①四月の②つごもり、五月イ［の］ついたちのころほひ、橘の葉ウ［の］濃くあをきに、花エ［の］いとしろう咲きたるが、雨うち降りたる③つとめてなどは、世にbなう④心あるさまにをかし。⑤花のなかより黄金（こがね）の玉かと見えて、いみじうあざやかに見えたるなど、朝露にぬれたるあさぼらけの桜に劣らず。ほととぎすの※2よすがとさへ思へばにや、なほさらに⑥言ふべうもあらず。

（「枕草子」より）

注

※1　しなひ長く…しなやかにたわんでいる花の房のこと。

※2　よすがとさへ思へばにや…好んでよく止まる木だと思うからだろうか、の意。

問一　波線部a「おほき」、b「なう」を現代仮名遣いのひらがなに直しなさい。a［　］　b［　］

問二　傍線部①「四月」の古典独特のよみかたをひらがなで書き、季節を漢字一字で答えなさい。よみ（　　）　季節（　　）

問三　傍線部②③④⑥の意味として最適なものをそれぞれ次から選び、記号で答えなさい。

②「つごもり」（　　）

ア　ある日　　イ　中旬　　ウ　最終日　　エ　前の日

③「つとめて」（　　）

ア　翌朝　　イ　毎朝　　ウ　日中　　エ　深夜

④「心あるさまにをかし」（　　）

ア　考え深い姿に感動する　　イ　風流心が感じられてよい

ウ　風情のある様子で趣深い　　エ　人情味ある態度で落ち着く

⑥「言ふべうもあらず」（　　）

ア　特に言うほどの価値はない

イ　どちらかといえば優れている

ウ　評価を言うための手段がない

エ　言うまでもなくすばらしい

問四　［　］ア～エのうち、文法的に働きの異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。（　　）

問五　［①］、［②］に省略されている、同じ言葉を本文からさがし、六字で答えなさい。［　　］

問六　傍線部⑤「花のなかより黄金（こがね）の玉かと見え」たものは何か。次から一つ選び、記号で答えなさい。（　　）

ア　咲く直前のつぼみ　　イ　花びらの散った枝

ウ　ひときわ美しい花　　エ　前の年に残った実

問七　本文についての説明として最適なものを次から選び、記号で答えなさい。（　　）

ア　筆者は木の花を複数挙げて、色彩や形状に着目して美しさを味わっている。

イ　木の花を学問上の分類に従って並べるところに筆者の学識の深さが見える。

ウ　ほととぎすと対比させて木の花の美を強調するのは筆者独自の手法である。

エ　木の花が美しく見えるのは時間帯の条件によると知って筆者は驚いている。

名前

／

英俊進学塾

3 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

中国・戦国時代の思想家である荘子は、貧しくてその日の食物がないため、隣人のもとへ行き、今日食べる玄米を分けてほしいと頼んだ。隣人は、荘子ほどの尊い人に玄米だけを差し上げることを恥だと考え、五日後に千両の金が手に入るので、それを差し上げようと言った。

荘子の曰く、「昨日道をまかりし*に、跡*に①呼ばふ声あり。顧みれば人なし。ただ車の輪跡のくぼみたる所にたまりたる少水に、鮒一つふためく。何ぞの鮒にかあらんと思ひて寄りて見れば、少しばかりの水にいみじう大きなる鮒あり。『何ぞの鮒ぞ』と②とへば、鮒の曰く、『a我は河伯神の使に、*江湖へ行くなり。それが飛びそこなひて、③この溝に落ち入りたるなり。喉渇き死なんとす。b我を助けよと思ひて呼びつるなり』といふ。答へて曰く、『吾今二三日ありて、江湖といふ所に遊びしに行かんとす。そこにもて行きて放さん』といふに、魚の曰く、『さらにそれまで④え待つまじ。ただ⑤けふ一*提ばかりの水をもて喉を*うるへよ』といひしかば、さてなん助けし。鮒の言ひし事、c我が身に⑥知りぬ。さらにけふの命、物食はずは⑦いくべからず。後の千の金さらに益なし」とぞいひける。それより、「⑧後の千金」といふ事名*誉せり。

（「宇治拾遺物語」より）

*まかりしに…通ったら
*跡に…後ろの方で
*河伯神…河の神
*江湖…大河と湖
*一提…容器に一杯　「提」は、酒などを入れてつぐためのつるの取っ手のついた容器
*うるへよ…うるおせ
*名誉せり…有名になった

問一　傍線部①「呼ばふ声」は、誰が誰を呼ぶ声か。それぞれ文中から抜き出しなさい。（　　が　　を）

問二　傍線部②「とへば」、⑤「けふ」をそれぞれ現代仮名遣いに直しなさい。②（　　）　⑤（　　）

問三　二重傍線部a～cの「我」の指す人物が一つだけ違う。違うのはどれか、記号で答えなさい。（　　）

問四　傍線部③「この溝」は何を指しているか、文中から十九字で探し、初めと終わりの五字を答えなさい。□～□

問五　傍線部④「え待つまじ」の意味として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。（　　）

ア　全力で待ちましょう　　イ　もう待ちました
ウ　待ちたくはありません　　エ　待てないでしょう

問六　傍線部⑥「知りぬ」の意味として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。（　　）

ア　思い知らない　　イ　思い知りなさい
ウ　思い知った　　エ　思い知りたい

問七　傍線部⑦「いく」を解答欄に合うように、漢字一字に直しなさい。（　　く）

問八　傍線部⑧「後の千金」とはどういう意味か。十字以内で答えなさい。□

問九　荘子にとっての「今日食べる玄米」は、鮒にとっての何に当たるか。文中から七字で抜き出しなさい。□

E12618f59b790

名前

／

英俊進学塾

4 次の古文を読んで後の問いに答えなさい。

①今は昔、天文博士安倍晴明といふ陰陽師有りけり。古にもア恥ぢず、やむごと無かりける者なり。幼の時、賀茂忠行と云ひける陰陽師に随ひて、昼夜にこの道をイ習ひけるに、いささかも心もとなき事無かりける。

しかるに、晴明若かりける時、師の忠行が下渡りに夜歩きに行きける共に、歩にして車の後に行きける。忠行、車の内にしてよく寝入りにけるに、晴明見けるに、ウえもいはず怖しき鬼ども、車の前に向ひて来たりけり。【A】これを見て、驚きて車の後に走り寄りて、【B】を起して告げければ、その時にぞ【C】驚きて覚めて、鬼の来たるを見て、術法を以てたちまちに我が身をも恐れ無く、共の者どもをも隠し、平らかに過ぎにける。その後、忠行、晴明を去り難く思ひて、この道を教ふる事、瓶の水をうつすが如し。しかれば終に晴明、②この道に付きて公私につかはれて、いとやむごと無かりけり。

（「今昔物語集」巻二十四第十六より）

（注）天文博士…陰陽寮に属し、天文に関することを司る職員
陰陽師…官職の一つで、占いや土地の吉凶を判定する職
やむごと無かりける者…優れた人物

問一　〰〰線部ア～ウを現代仮名遣いに直し、全てひらがなで答えなさい。ア（　　）イ（　　）ウ（　　）

問二　――線部①「今は昔」の訳として適当なものを次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。（　　）

ア　今は昔ほどではないが　　イ　今となっては昔のことだが
ウ　今は昔と同じようなもので　　エ　今と昔は違うけれども

問三　空欄【A】～【C】に入る語を次より選びそれぞれ答えなさい。同じものを何度使ってもかまいません。

A（　　）B（　　）C（　　）

晴明・忠行・鬼・車

問四　――線部②「この道」とは何のことか、「○○道」となるように、○○の部分を文中より二字で抜き出して答えなさい。□道

問五　次の各文が本文の内容に合っていれば○、合っていなければ×をそれぞれ答えなさい。

ア（　　）イ（　　）ウ（　　）エ（　　）オ（　　）

ア　忠行は晴明に学問を習っていた。
イ　鬼が晴明を襲ってきたので、晴明は鬼を退治した。
ウ　忠行は術法を使って、身の危険をなくした。
エ　晴明は独学で道を極め、世間の人から認められた。
オ　忠行は晴明を身近に置いておきたいと思った。

問六　この文章の出典『今昔物語集』は平安時代に成立したものである。同じく平安時代に成立した作品を次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。（　　）

ア　竹取物語　　イ　徒然草　　ウ　平家物語　　エ　奥の細道

E12618f59b790

1 【解き方】問一．a．助動詞に含まれる「む」は「ん」にする。b．語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」にする。

問二．②「御相伝浮けることには…おぼつかなくぞ」は，「或人」の言葉である。④「道風が書ける和漢朗詠集」を持っていた人がそれをますます秘蔵したということであり，その持ち主が主語となる。

問三．四条大納言が編集したものを，四条大納言よりも前の時代の小野道風が書き写したということが，時代が合わず矛盾していることから，「おぼつかなくぞ」と言っていることをおさえる。

問四．「有がたき」は，めったにないということを意味する語。そのことから，ますます秘蔵するに値すると言っていることをおさえる。

問五．時代が合わないあやしい物を，だからこそ秘蔵するに値すると言うような，一般的には考えにくいことを言う人である。

【答】問一．a．かかん　b．あわず　問二．② ウ　④ ア　問三．a．エ　b．イ　c．ク　問四．イ　問五．ウ

◀口語訳▶　ある者が，小野道風が書いた「和漢朗詠集」といって持っていたのを，「（あなたの）家に伝わるもので，いいかげんなことはないでしょうが，四条大納言が編集なさった物を（それ以前に亡くなった）道風が書くというのは，時代が合わないでしょう。こころもとないことです」と言ったところ，「ですからこそ，世の中にめったにない物でございます」と，ますます大切にしまっておいた。

2 【解き方】問一．a．語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」にする。b．「au」は「ô」と発音するので，「なう」は「のう」にする。

問二．旧暦では一月～三月が春，四月～六月が夏，七月～九月が秋，十月～十二月が冬。

問三．④「心」は，おもむき，風情という意味。⑥「べう」は，「べく」のウ音便。「言ふべう（べく）もあらず」は，言いようもないという意味。

問四．イは連体修飾語をつくる働き。ア・ウ・エは主語を示す働き。

問五．「木の花は…」「桜は…」「藤の花は…」と三つの文を並べて述べているので，「藤の花は…」の末尾「いとめでたし」が他の文にも共通すると考える。

問六．橘はミカン属の高木。その果実を「黄金の玉」に見立てている。

問七．本文では，紅梅，桜，藤，橘と，複数の木の花をあげ，それぞれの形状や色の風情を述べている。

【答】問一．a．おおき　b．のう　問二．（よみ）うづき　（季節）夏　問三．② ウ　③ ア　④ ウ　⑥ エ　問四．イ　問五．いとめでたし　問六．エ　問七．ア

◀口語訳▶　木の花は，濃いものでもうすいものでも，紅梅がたいへんすばらしい。桜は，花びらが大きくて，葉の色の濃いものが，枝は細くて咲いているのがたいへんすばらしい。藤の花は，しなやかにたわんでいる花の房が長く，色濃く咲いているのが，たいへんすばらしい。四月の最終日か五月の初日のころ，橘の葉が濃く青いところに，花がたいへん白く咲いているのが，雨が降った翌朝などは，この世に類がないほど風情がある様子で趣深い。花の中から実がまるで黄金の玉であるかのように見えて，たいへんくっきりと見えているところなどは，朝露にぬれている明け方の桜に劣らない。ほととぎすが好んでよく止まる木だと思うからであろうか，やはりあらためて言うまでもなくすばらしい。

3 【解き方】問一．声を聞いた荘子が振り返ったところ，「車の輪跡のくぼみたる所にたまりたる少水に，鮒一つふためく」と述べている。

問二．② 語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」にする。⑤ 語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」にし，「eu」は「yô」と発音するので，「けふ」は「けう」となり，「きょう」にする。

問三．a と b は，前に「鮒の曰く」とあるので鮒。c は，「荘子の曰く」に続いている一連の中での「我」なので荘子。

問四．「落ち入りたる」とあるので，鮒が落ちてばたばたと跳ねている場所をおさえる。

問五．「え」という副詞は，後に打消の語を伴って「～できない」という意味になる。「まじ」は，打消推量の助動詞で「～ないだろう」という意味。

問六．「知り」は連用形なので，「ぬ」は完了の助動詞。

問七．前に「けふの命，物食はずは」とあることから考える。

問八．ものを食べられずに死んでしまい，その後になって「千の金」をもらっても，「益なし」と述べていることに着目する。

問九．鮒が「喉渇き死なんとす」と訴えていることから，その鮒が今すぐに求めているものを探す。

【答】問一．鮒(が)荘子(を)　問二．② とえば　⑤ きょう　問三．c　問四．車の輪跡の～りたる少水　問五．エ　問六．ウ　問七．生(く)　問八．全く役に立たないこと(または，意味をなさないもの)（10 字，または 9 字）（同意可）　問九．一提ばかりの水

◀口語訳▶　荘子が言うには，「昨日道を通ったら，後ろの方で呼びかける声がした。振り返ると人はいなかった。ただ車のわだちのくぼんだ所にたまった少しの水の中に，鮒が一尾ばたばたと跳ねている。どうしたのだろうと思って寄って見ると，少しばかりの水の中にとても大きな鮒がいた。『どうしたのだ』と問うと，鮒は，『私は河の神の使いで，江湖へ行くのです。それが飛びそこなって，この溝に落ちてしまったのです。喉が渇いて死にそうです。私を助けてほしいと思って呼んだのです』と言った。荘子は答えて，『私はあと二三日したら，江湖という所に遊びに行く予定です。そこに運んで行って放しましょう』と言うと，魚は，『とてもそれまでは待てないでしょう。ただ今日提に一杯ばかりの水で喉をうるおしてください』と言ったので，そうして（鮒の言うとおりにしてやって）助けた。鮒の言った事は，わが身のこととして思い知った。今日の命は，物を食べなければ生きることができない。後で千両の金をもらってもまったく役に立たない」と言った。それから，「後の千金」という事が有名になった。

4 【解き方】問一．ア．「ぢ」は「じ」にする。イ・ウ．語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」にする。

問三．A．直後の「これを見て，驚きて車の後に走り寄りて」に続くので，「歩にして車の後」にお供していた人物。B．「車の後に走り寄りて」「起して告げければ」とあることから，「車の内」で寝入っていた人物。C．後の「驚きて覚めて」に続くので，「車の内」で寝入っていて起こされた人物。

問四．晴明は，「賀茂忠行」から「この道」を習ったとある。

問五．ア．「賀茂忠行と云ひける陰陽師に随ひて，昼夜にこの道を習ひける」とある。イ・ウ．「鬼の来たるを見て，術法を以てたちまちに我が身をも恐れ無く，共の者どもをも隠し，平らかに過ぎにける」とある。この行動を取ったのは，「車の内」で寝入っていて起こされた忠行。エ・オ．「その後，忠行，晴明を去り難く思ひて，この道を教ふる事，瓶の水をうつすが如し」とある。

問六．イは成立時期不明（鎌倉時代という説あり），ウは鎌倉時代，エは江戸時代の成立。

【答】問一．ア．はじず　イ．ならいける　ウ．えもいわず　問二．イ　問三．A．晴明　B．忠行　C．忠行　問四．陰陽(道)　問五．ア．×　イ．×　ウ．○　エ．×　オ．○　問六．ア

◀口語訳▶　今となっては昔のことだが，天文博士である安倍晴明という陰陽師がいた。古い家柄の者にも見劣りしない，優れた人物であった。幼少の頃より，賀茂忠行という陰陽師に師事して，昼夜を問わず陰陽道を習っていたのだが，全く頼りないということが無かった。

そのようにして，晴明が若かった頃に，師匠の忠行が下京へ夜歩きに行ったのにお供して，歩いて牛車の後をついて行った。忠行は，車の中でよく寝入っていたのだが，晴明が見ると，なんとも恐ろしい鬼たちが，車の前方から向かって来る。晴明はこれを見て，驚いて車の後ろに走り寄って，忠行を起こして事情を告げると，その時に忠行は驚いて目を覚まして，鬼が来ているのを見て，法術を使ってすぐに自分の身を隠し，お供の者たちも隠して，何事も無く通り過ぎることができた。その後，忠行は，晴明を手放したくないと思って，陰陽道を教えることにおいて，瓶の水を移すように余すところなく（晴明に）伝えた。そういう訳でついに晴明は，陰陽道において公私共に重用され，優れた陰陽師となったのである。